

郷土愛を育み

未来に夢と希望の持てるまちづくり

雄武町長 石井 友藏

新年

明けましておめでとございませう。町民の皆さまにおかれましては、すがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から町政に対しご理解と協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、私は昨年9月の雄武町長選挙におきまして、町民の皆さまの温かいご支援とご支持を賜り、初当選の栄に浴し、町政の重責を担うこととなったところであります。が、町民の皆さまの「生命」と「暮らし」を守る行政の責任者として、町政運営に全力を尽くし、町民の皆さまとともに歩んでまいりたいと考えております。

昨年を振り返りますと、昨年の漢字は「正」となりましたが、天皇陛下が退位され、5月に「平成」から「令和」へと元号が改められ、新しい時代の幕が開けたところでもあります。「令和」には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育ち、明日への希望とともに、次世代を生きていく子どもたちが、大きな花を咲かせることができる」という意味が込められているということでもあります。新しい令和の時代が、平和で希望に満ちあふれた世の中になることを切に願っております。

昨年も国内では、大規模な自然災害が発生しました。本町の友好都市である佐賀県武雄市も、記録的な大雨による河川の氾濫

等により、大きな被害を受けております。

雄武町におきましては、幸いにも人命に關わるような自然災害は発生しませんでした。が、5月27日に確認した大規模な林野火災は、鎮火宣言の6月19日までの長期間にわたり国や北海道のほか、関係機関や関係団体の協力により消火活動が行われました。自然災害については、いつ、どこで起こり得るか予測ができませんが、さまざまな災害の発生に備え、常に危機管理意識を持って、災害対策に取り組んでまいります。

昨年の町内産業の状況については、農業において生乳は、離農により搾乳農家は47戸に減少しましたが、各協業法人における経産牛の増頭が順調に進展し、今のところ過去最高を記録した昨年度の生産量、生産額を上回っております。牧草については、6月から7月にかけて平年より降水量が少なかった影響から、収穫量は若干減少し、デントコーンも春先の干ばつに伴う発芽不良が影響し、平年より減収となっております。漁業は、主要魚種の1つでありますホタテ貝が計画を上回り、1万7千5百トンを超える漁獲量となったものの、毛ガニは計画量の3割しか獲れず、サケにつきましても不漁が始まった過去3年間で最低の漁獲量となっております。漁獲金額については、ホタテ貝が回復したことや底産網漁業が好調だったことにより、計画を上回って

おります。関連する水産加工業では、毛ガニやサケの不漁に加え、平成27年からのホタテ貝減産により、非常に厳しい状況が続いておりますが、ホタテ貝は、史上最高の漁獲量となり、今後においても安定的な原料確保が期待できますので、早期に経営の安定化が図られることを願っております。

私は、昨年10月から町政運営に取り組んでおりますが、責任感と使命感で身の引き締まる毎日を送っております。町長就任にあたりましては、「郷土愛を育み 未来に夢と希望の持てるまちづくり」というスローガンを掲げ、それを実現するために『地域産業』、『医療・福祉』、『教育』、『観光』、『町民と真の協働』、『人口減少対策』によるまちづくりの6つの重要施策を披露させていただいたところであります。

先人が築き上げたこの町をしっかりと守り、次代に引き継いでいけるように、昨年の流行語大賞にもなりました「ONE TEAM」の精神で、職員とともに政策の具現化に向け全力を傾注してまいりますので、町民の皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

令和

2年の新しい年が明けました。町民の皆さまにおかれましては、穏やかに新年をお迎えのこと心よりお慶び申し上げます。旧年中は私共町議会に対し、深いご理解と温かいご支援、ご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

昨年は平成の天皇陛下が4月30日に退位され、5月1日に皇太子徳仁親王殿下が第126代天皇に即位されました。皇位継承に伴い、元号が「令和」に改められ、令和時代の始まりとなった年でした。

また、スポーツ界では、8月に女子ゴルフの渋野日向子選手が全英女子オープンで初優勝。9月にはラグビー・ワールドカップ日本大会が開催され、日本代表の予選リーグ4戦全勝で初の8強入りを果たす快挙に、日本中が盛り上がりました。さらに、ノーベル化学賞にリチウムイオン電池を開発した吉野彰・旭化成名誉フェローが選ばれるなど、明るい報道が続く一方で、台風15号の強風により千葉県で長期間の大規模停電の被害。台風19号では、土砂崩れなどで多数の方が犠牲になり、台風21号による大雨では、各地で河川氾濫による被害が発生しました。本町の友好都市である佐賀県武雄市でも、8月には前線による大雨で市内の河川が氾濫し、浸水のため多くの方が被災されました。気象環境が激しくなっている現実を目の当たりにすると、さまざまな災

害から町民の命と財産を守るために、あらゆる対策の重要性を再認識させられます。

雄武町の昨年は、漁業が前年に続き毛ガニとサケが記録的な不漁に終わりましたが、主力であるホタテ漁は計画を超えて1万7千5百トンの水揚げを達成しました。待ち望んだホタテの資源量の回復と、たけのこ、昆布およびウニ漁が一定の水揚げとなったことは誠に喜ばしく、これまでの関係各位のご努力に心から敬意を表します。さらに漁港については、皆さんが町内4カ所の漁港を利用して安心・安全な操業が図られるよう毎年整備が進められており、これが次世代の水産業発展の礎となる事でしよう。農業は、法人化して規模拡大を目指す方々は設備投資が一段落しましたが、町内全体の生乳生産も毎年増加しております。比較的多くの農地がある本町の農業は、今後も発展する可能性を秘めていると私は強く信じています。日米貿易協定の行方を注視しつつも、たくましい酪農経営の実現に期待をしています。基盤整備では「国営緊急農地再編事業雄武丘陵地区」による農地の整備工事は3年目になります。すでに整備が完了した農地は、排水効率向上と大面積による良質な粗飼料生産への効果が表れており、今後の整備進展が待たれるところです。

また、5月27日に中幌内で確認された山

火事は、6月19日の鎮火宣言まで24日間延焼しましたが、札幌消防ヘリ・北海道防災ヘリ・陸上自衛隊ヘリ・航空自衛隊ヘリなど延べ27機が消火のために活動していただきました。雄武町内の消防団員および紋別地区消防組合消防署の職員の皆さまを始め、自衛隊第2師団司令部（旭川）・陸上自衛隊第25普通科連隊（遠軽）・第2飛行隊（旭川）・北部方面ヘリコプター隊（丘珠）・第1ヘリコプター隊（木更津）・空自三沢ヘリコプター空輸隊・空自入間ヘリコプター空輸隊、北海道・北海道開発局（網走開発建設部・旭川開発建設部、北海道警察興部警察署・他関係機関の方々に、あらためて感謝申し上げます。

昨年は、春の知事・道議会議員選挙の後、町議会議員選挙。その後参議院議員選挙と9月の町長選挙が執行された選挙の年でした。町議会議員選挙では、12人が立候補して3人の新人と7人の現職が当選しました。雄武町の将来を見据え、気持ち新たに町民の皆さまの思いを背負い、安全で安心して暮らせる力強い町を目指して活動してまいります。

本年も、議会に対し、より一層のご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、町民の皆さまにとりまして、より良い一年になりますよう心からご祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

安心・安全・力強い町

雄武町議会議長 橋詰 啓史



雄武町長と雄武町議会議長が語る

子年の誓い